

調査の概要

1. 調査の目的

市民の市政に対する意識、意見、要望等を統計的手法によつて的確に把握し、市政運営の有効な資料とする。

2. 調査の設計

- (1) 調査地域 相模原市全域
- (2) 調査対象 18歳以上の相模原市在住者
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳からの等間隔系統抽出
- (5) 調査方法 郵送調査法（郵送に準じた配付 - 郵送回収、はがきによる督促1回）
- (6) 調査期間 令和元年5月24日～6月13日
- (7) 調査機関 株式会社エスピー研
- (8) 有効回収数（率） 1,448（48.3%）

3. 調査の内容

令和元年度 市政に関する世論調査は、9の項目について調査した。

調査項目	設問番号
1 市や区に対する愛着や定住意識について	問1～問3
2 相模原市の景観について	問4～問7
3 文化芸術の振興等について	問8～問11
4 地域福祉の推進について	問12～問16
5 応急手当の講習会について	問17～問18
6 自転車事故に備えた保険等の加入について	問19～問20
7 農産物の地産地消と農地の保全について	問21～問25
8 ICTの利用等について	問26～問29
9 市の公共施設について	問30～問36
基本属性（年齢、居住地等）	F1～F8

4. 区別

地域	地区（対象住所）
1 緑区	橋本地区、大沢地区、城山地区、津久井地区、相模湖地区、藤野地区
2 中央区	小山地区、清新地区、横山地区、中央地区、星が丘地区、光が丘地区、大野北地区、田名地区、上溝地区
3 南区	大野中地区、大野南地区、麻溝地区、新磯地区、相模台地区、相武台地区、東林地区

5 . 区別・地区別回収状況



区	地区名	標本数	回収数	回収率
緑区	橋本	307	139	45.3%
	大沢	139	62	44.6%
	城山	101	46	45.5%
	津久井	106	50	47.2%
	相模湖	33	15	45.5%
	藤野	34	15	44.1%
	緑区計	720	327	45.4%
中央区	小山	80	33	41.3%
	清新	123	44	35.8%
	横山	58	18	31.0%
	中央	149	125	83.9%
	星が丘	74	35	47.3%
	光が丘	117	51	43.6%
	大野北	256	106	41.4%
	田名	125	57	45.6%
	上溝	144	72	50.0%
	中央区計	1,126	541	48.0%
南区	大野中	261	113	43.3%
	大野南	324	182	56.2%
	麻溝	75	39	52.0%
	新磯	53	29	54.7%
	相模台	192	90	46.9%
	相武台	80	28	35.0%
	東林	169	79	46.7%
	南区計	1,154	560	48.5%
地区不明	0	20	-	
合計	3,000	1,448	48.3%	

6. 集計結果を見る上での注意事項

- (1) 表、グラフのnまたは、()内の数字は、回答者数のことであり、回答はすべてnを基数とした百分率で表わし、小数点第2位を四捨五入した。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 集計結果の表やグラフは、コンピューター入力の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合がある。
- (3) 回答の比率は、その質問の回答者数を基数として算出した。複数回答の設問は100%を超える場合がある。
- (4) 回答数が小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (5) 今回の調査結果による標本誤差は下記のとおりである。例えば、回答者数が1,448である回答が50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.63以内(47.37%～52.63%)とみることができる。

< 標準誤差の表 >

回答比率 回答者数	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
1,448	±1.58	±2.10	±2.41	±2.57	±2.63

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{\text{回答比率}(1 - \text{回答比率})}{\text{回答者数}}}$$

標本誤差とは、母集団からある数の標本を選ぶとき、選ぶ組み合わせによって統計量がどの程度ばらつくかを、すべての組み合わせについての標準偏差で表したものをいう。